

■米国：大手の **Sempra Energy** 社、米国内の再エネ資産をすべて売却

2019年4月25日付の専門紙によると、Sempra Energy社は4月22日、72万4,000kWの風力発電と蓄電設備を American Electric Power (AEP) 社へ10億5,000万ドルで売却した。対象となる資産は、7カ所の風力発電設備と蓄電設備1カ所であり、BP Wind Energy社との共同プロジェクト5カ所を含むすべての Sempra Energy 社の再エネ資産である。Sempra Energy社は、2018年12月に太陽光と蓄電池の開発プロジェクトと風力発電設備1カ所を Consolidated Edison 社へ16億ドルで売却しており、今回の売却で完全に米国の再エネ事業からの撤退となった。同社は、今回の売却の目的は負債の返済と資産の再配分としている。一方 AEP 社は、2050年までに2000年レベルと比較して80%の二酸化炭素の排出削減を目標としており、これに向けた買収となった。この結果、AEP社の電源に占める石炭火力の割合は2005年の70%から46%へ低下し、同じく再エネは4%から16%まで増加した。AEPによれば、買収した7つの風力発電の設備利用率は37%で、すべて16年間のPPA契約が残っている。